

## BOSTON 市内雪中遭難記

杉野信博

50年余り前の真冬の Boston での出来事であります。小生はその年の春に Harvard Medical School (以下 HMS) に Research Fellow として着任し、Building D (以下 D) 1階の生物物理研究課 (主任 A. K. Solomon 教授) で働いていました。

2月初めの或る朝、窓ががたがた音を立てているので5時前に目を覚まし、外を見ると何と吹雪です。既に隣近所の屋根も真白です。研究室の仲間からこの New England 地方には一冬に1度や2度 blizzard (猛吹雪) が来て数日は町が麻痺すると聞いており、まさしくそれであります。白黒 TV を点けると、既に空港は閉鎖され鉄道も不通とのこと。安アパートの室温も零下に下がっているので電気・ガスの両ストーブを満開にしました。顔を洗って早めに研究室に行こうと思っていたら突然電気が消え TV も止まり外も暗黒です。電池ラジオを点けると Boston 市内及び近郊も停電だと。蠟燭を点けてガスは未だ出るので湯を沸かし、パンを焼いて朝食を済ませたのですが、外は猛烈な雪嵐となっていました。考えると昨日まで使っていた Necturus (両棲類) は Wisconsin から運ばれて来て温度に敏感なので適温 -5~2~3℃ 前後に冷蔵庫で飼っています。2,3日前に苦勞して片腎摘除、残腎 2/3 とした大切な実験動物であります。研究室も停電になったら大変だと思い、「よしっ。完全武装して研究室に行ってみよう」と頭巾だの長靴、目や耳の防護カバー、懐中電燈を持って雪の中へ飛び出しました。

D 棟の前が HMS の裏玄関で其処から真直ぐ西に向う広い Louis Pastur Ave を 20 m ばかり行くと公園

Fenway Park 内の緑地帯があり、それを突切るとプロ野球 Red Sox の球場があります。曲りくねった細い道を数分南進すると、わが安アパートに着きます。通常は15分許りの徒歩通勤なのです。此の日ほとんどない、足首が雪の中にめり込んで北風に押し返されて進むのが困難です。視界も余り良くなく、何とか日頃の勘を頼りに苦勞しながら D 棟に辿り着いたのは、出発後 40 分を超えていました。合い鍵で D 棟の中に入ると暗闇です。夏の頃、休日に実験用具の手入れに出勤していた時、近くの電気屋から少年工が点検に来ました。昼休みに D 棟近くの小食堂に一緒に行きランチをおごってやったら喜んでいて、D 棟に帰ったら、「ドクター、地下の配電室を見たことあるか?」と聞くので「No」と言ったら案内して教えてくれました。その通りに大きな配電盤の中央ボタンを押すと「ごーっ」と言う大音響と共に D 棟全部が明るくなり、更に左下の小ランプを捻じると 1F の研究室の細部まで点灯したのです。この経験を活かして研究室に入り冷蔵庫を空けたら、Necturus は未だ生きて動いていました。大安心です。早速水槽の中へ飼料を加え温度を確認しました。やれやれと思って帰ることにしましたが、玄関を出たら猛吹雪がもっと激烈になっています。強風で飛ばされそうな凄いの、1~2秒一寸弱まるのを繰り返しているようなので勇気を奮って Louis Pastur Ave に出ました。横なぐりの北風で体が倒れかかり、雪も膝近くまで積っていました。「こりゃ出てくるんでは無かったな」と思ったのですが、もう公園の中に入っています。此処までにも何回か雪の中に



図 雪中苦闘

倒れ全身雪だらけです。視界は一層悪く、ぼんやりと見える樹木や建物が頼りです。公園の中の見慣れたトイレが見えたので中に入りましたが矢張り真暗です。でも其処で数分間中休みをしました。静かにしていると凍死しそうなので、身体をふるわせています。若し、この雪中で凍死でもしたら「市内雪中で日本人の医師凍死」などと書かれ、当時第二次大戦後の初めてのD棟留学生だった小生は日本人として末代までの恥辱になると思い、また勇気を奮って出ました。何度も転び起きて悪戦苦闘しながら行進を続けていたら、右前方にうっすらと球場の Score Board が見えたのです。心が飛び上るのを感じて、早足で転びながら球場に向って突進して外野席入口の前まで来ました。此の入口は野球好きの小生が、ラジオで熱戦の時5,6回を過ぎると職員は誰も居なくなって、タダで入れるので常用し

ていた入口です。これに向って左へ真直ぐ行けばわが安アパートに辿り着けます。こんな苦闘をしてアパート3Fの部屋に入るや、雪を叩き落してそのままベッドに倒れ込みました。どのくらい意識不明だったか？とにかく眼が覚めたら未だ真暗です。急いでガスストーブを点火し、浴室の湯舟に湯を一杯にして徐々に下半身、腹、胸へと漬かって行きました。極楽です。九死に一生を得た感じでした。

後年東京で大リーグのTVを点け、Bostonの試合を見ると未だFWP球場は余り変わっておらず、時々画面に附近の街角が映るので、懐しさが一杯になりました。

### 追記

Blizzardの1件の3日後に研究室に全員揃った朝、仲間と市内の被害だの話していたら、教授秘書のN嬢がやって来て「Dr. Sugino, 教授が呼びです。お出下さい」と言うのでSolomon教授室に行った。ドアをノックして入ったら、何時も怖い顔をして資料を見ながら此方に向いて話す人が、顔をくしゃくしゃにして立ち上り肩を叩かれた。

「君は一昨日嵐の中をD棟に来て、受動式の自家発電機を点灯したそうじゃないか。守衛が君が出て行くのを見たそうだ。D棟だけが明るかったとのことだ。D棟の2,3階の各教授達も高価な試薬だの実験材料が助かったと感謝していたよ。よくやった。」と抱きついてくれた。

これから暫くは小生はD棟での一寸したheroになったのであります。怪我の功名ですね。